

## 安全運転チェックポイント...

安全運転チェックポイント...

### カーブ走行の危険

#### ポイント1 スピードのコントロール

カーブは見通しが限られている。先に潜む危険を予測しないと、車線をオーバーせずに曲がり切れる速度でも危険。



トラックには、カーブで走行バランスを崩しやすいという弱点があり、乗用車に比べカーブでの事故が多いという傾向があります。

したがって、カーブを走行するときは、安全速度の確保に十分な配慮が必要となります。カーブでの安全運転の第一チェックポイントは、スピードのコントロールです。

カーブでのスピードコントロールは、曲がり損ねることのない速度をカーブの手前で十分に確保することは当然で、このことは誰もが認識していることです。

しかし多くのドライバーが、安全速度と思い込んでいる「車線をオーバーすることなく曲がり切れる速度」、このギリギリのスピード感が、結果、事故を起こすことにつながります。

車線をはみ出しぎみに走ってきた対向車に危険を感じ、急ブレーキ等の操作を不用意に行ったためコントロールを乱して衝突や横転事故を起こす。また、

事故や故障のために停止していた車を発見し、急ブレーキを踏むも間に合わず追突する、という事故にみられるように、見通しが限られるカーブには、スピードを出し過ぎれば車線をオーバーするという危険のみならず、先々の安全を事前に確認できないという決定的な危険が潜んでいるということを十分に自覚しておくことが大切です。

カーブでの事故には、曲がり損ねたための正面衝突事故や単独事故だけでなく、それ以外の追突事故や出合頭の衝突事故など様々な事故が多く、これらのお大半が、「見通しが限られている」という危険に対する警戒心の無さに起因しています。

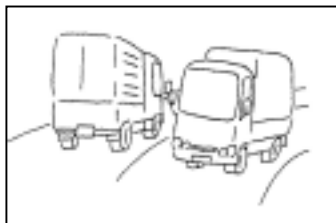


(見通しが効く範囲で危険に対応できる速度で走行)

カーブでのスピードコントロールは、車線をオーバーせずに曲がり切れる速度ではなく、「前方に危険を発見した時でも十分に対処できる速度」で走行することが大切です。

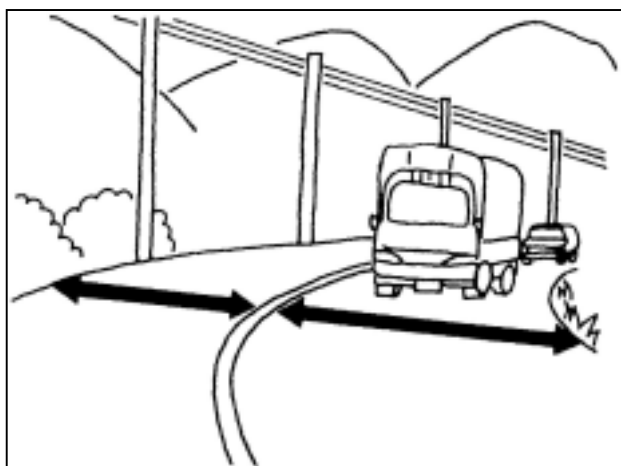
## ポイント2 右カーブか、左カーブか

右か、左かによって、潜在している危険や警戒すべき点が違う。



カーブでの安全運転のために実行していただきたいもうひとつのチェックポイントは、自車が進入するカーブが右カーブか、左カーブかを意識して運転することです。実際のカーブ事故を見ると、カーブが右か左かによって、その発生傾向が違ってきます。

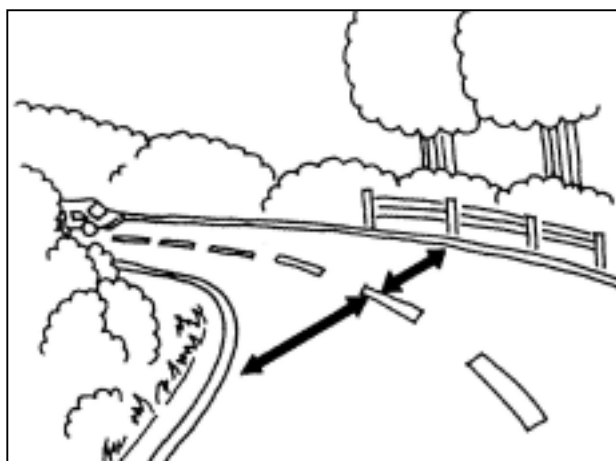
まず、トラックドライバーが警戒しなければならないのは、左右いずれのカーブでも無意識のうちにカーブの内側へ寄って走ってしまうことです。特に右カーブの場合、自車線よりも対向車線の幅員の方が広く見えることなどが影響して、知らぬ間に対向車線に食い込んで走行しがちとなり、このため対向車の出現などに慌てて進路を乱し、路外逸脱などの単独事故を引き起こしたり、また、危険を感じた対向車が異常反応して進路を乱し、それと正面衝突するという事故も少なくありません。事実、このような事故は左カーブよりも右カーブで多発しています。



(右カーブでは対向車線のほうが広く見える)

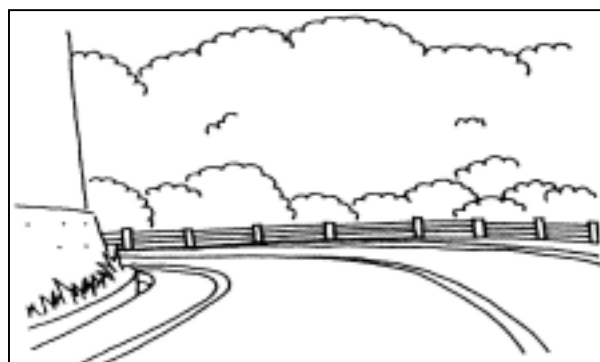
次に、左カーブでは対向車線よりも自車線の方が広く見えることなどの影響により、無意識のうちにカ

ーブの内側、つまり路側に寄り過ぎて走行することが多くなり、このため内輪差の大きいトラックは、道路左側の側溝に脱輪するという事故を引き起こしやすく、カーブでの脱輪事故の多くは左カーブで発生しています。また、左カーブでは、スリップすると車は確実に対向車線にはみ出し、正面衝突を起こす危険性が大であり、正面衝突事故の第一当事者の大半は左カーブを走行していた車です。



(左カーブでは自車線のほうが広く見える)

なお、左カーブでは右カーブよりも単独事故以外の事故(車両相互事故等)が多く発生しており、右カーブよりも見通しが一層限られ、危険の発見がより遅れやすいことが要因と思われます。



(左カーブでの事故が多い)

カーブを走行する際は、それぞれのカーブによって潜在している危険や警戒すべき点が違うことを認識し、自車が進入するカーブの方向をしっかりと意識して運転する習慣をつけることが大切です。